エコ計画

森林の価値を戦略的に活用

首都圏に近い歴史ある群馬県高崎市の森林をサステナビリティ経営に生かす。
フォレストック認定を取得してブランディングや地域貢献に活用している。

群馬県高崎市の西部にある倉渕町地区には約1000haの広大な森林が広がる。長野県軽井沢町に隣接するこの地区は、中山（なかせん）道の裏街道として江戸時代から往来が多かったという。江戸城を改築・再建するためのケヤキ材などもこの地区で育てられ、同街道に沿って流れる利根川の支流・烏川を経由して江戸城下まで運ばれた由緒ある森でもある。

この森を所有するのが、埼玉県の旧浦和市（現・さいたま市）で1970年に創業したエコ計画だ。廃棄物の収集・運搬から中間処理、最終処分までをワンストップで手掛けている事業者で、「環境・食・貢献」をテーマに事業を推進している。本業に大きく関連する「環境」に軸足を置いた事業展開で地域貢献や地域との共生を企業理念に掲げる。

特に、地域への貢献として地域企業に積極的に資本参加しており、サッカーJリーグ「浦和レッズ」を運営する浦和レッドダイヤモンズや、ケーブルテレビ最大手ジェイコムグループのジェイコム埼玉・東日本の経営に参画している。

■ 森林の健全経営でSDGsの14目標に対応

	SDGs該当目標	エコ計画の事業事例
	2	農地所有適格法人の保有（地産地消）
★	3	自然体験できる環境保護（尾瀬保護財団特別会員）
	4	若い世代に向けた環境教育（ジュニア・エコタイムス、ぐんまエコ宣言！）
	5	WEリーグ 浦和レッズレディース 塩越柚歩選手（当社 環境アンバサダー）のサポート 女性管理職の登用推進
★	6	水源涵養保安林（エコ計画の森林）
	7	施設における蒸気タービン発電
	8	障害者雇用の促進（特例子会社）
	9	サーマルリサイクルからマテリアルリサイクルへ
★	11	かやぶき家屋の保存・継承、林業遺産（エコ計画の森林）
★	12	地方創生に寄与する持続可能な森林経営（エコ計画の森林）
★	13	CO_2の吸収と貯蔵（エコ計画の森林）
★	14	海洋資源保全（エコ計画の森林）
★	15	生物多様性（エコ計画の森林）
	17	地域、行政、企業等とのパートナーシップによる事業の推進

達成に向け取り組みを進めている残り3目標：1 貧困をなくそう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に

★森林に関する目標

出所：エコ計画

■ フォレストック認定を受けた「エコ計画の森林」

長野県軽井沢町に隣接する「エコ計画の森林」は、フォレストック認定を取得。毎年2000tを超えるCO_2吸収量が認定されている

出所：エコ計画

SDGsで14の目標をカバー

エコ計画は倉渕町地区にあるこの森林（以下、エコ計画の森林）を2008年に取得した。それ以来、持続可能な森林経営に積極的に取り組んでいる。林野庁などは森林保護を、日本の国土と水源を守る保全につながることから「サステナビリティの観点から最も価値の高い取り組み」と位置付けている。エコ計画もその観点から、森林をサステナビリティ経営の中心に据え、戦略的に活用している。

SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みという観点では、17ある目標のうち、森林保護を中心に14の目標をカバーしている。残る3つの目標についても、「22年度内には何らかのかたちで取り組みをスタートさせたい」と山崎禎泰・執行役員経営企画室長は抱負を語る。

エコ計画の森林は、企業がサステナビリティ経営を深耕していく上で、“森”という資産が新たな環境価値を社会にもたらすケーススタディーとして大いに参考になる。首都圏の近くで広大な天然林を包摂した森林を購入して経営するのは「ご縁がないと、なかなか難しい事業」ではあるものの、どのような面でサステナビリティに貢献するのかを見てみよう。

エコ計画の森林は、12年11月に「フォレストック認定」を取得した。フォレストック認定制度とは、適切な森林管理によるCO_2吸収量の確保に特化したクレジット認定制度である。日本林業経営者協会が08年に創設した「フォレストック協会」

が認定を行なっている。

実際には、専門的な調査能力を持つ森林認証機関が「森づくりにおける森林吸収源・生物多様性等評価基準」に従って、「生物多様性の評価」及び「森林の管理・経営の評価」を行なう。さらに森林吸収源（CO_2吸収量）を算定し、フォレストック協会が「CO_2吸収量クレジット」を発行する。国内初のフォレストック認定を取得したのは、群馬県片品村にある「尾瀬戸倉山林」だ。エコ計画の森林は、首都圏（関東地区）に位置しながら尾瀬に次いで2番目に認定を受けた。

全面積の約7割が天然林

まず生物多様性の評価において、エコ計画の森林は、全面積958haのうち約7割が天然林であり、様々な動植物種が生息しているという点で高い評価を受けている。

天然林のうち約3分の1を広葉樹林が占め、その中に人工植樹などによるスギ、ヒノキ、カラマツの針葉樹林がバランスよく配置されている。多様な樹種と林齢の木が分布しているのが特徴だ。

特筆すべきは樹齢約100年のヤマツツジが群生し、春になると色鮮やかな花を咲かせて、近くにある浅間隠山などを訪れる登山客らの目を楽しませることだという。烏川に流れ込む渓流沿いにはサワグルミやカエデ類などの広葉樹渓畔林が形成され、沢にはイワナ、サンショウウオなどの水生生物や、オオルリ、ツツドリ、カケス、ホトトギス、キセキレイといった鳥類も多く生息することが調査で分かった。生物多様性の非常に豊かな森林なのである。

一方CO_2吸収量の観点では、フォレストック協会はエコ計画の森林全体で約2000tのCO_2吸収量があると認定している。エコ計画は取得したCO_2吸収量クレジットを他の企業に売却し、得られた収入を森林の管理費用などに充てている。21年末までにエコ計画からクレジットを購入した企業は30社以上に上る。

17年にはフォレストック認定を更新して2期目に入った。エコ計画は、取得したCO_2クレジットの大部分をジェイコムグループに融通している。ジェイコムでは、顧客が利用した後に不要となった端末などの廃棄量が年間300万台に上る。エコ計画では、これらの端末の回収と廃棄を受託している。廃棄端末などの回収・運搬で排出されるCO_2は年間約100tになるが、これを5年間分埋め合わせるためにCO_2吸収量クレジット500t分を活用している。同グループのジェイコム電力では、加入世帯数に応じてCO_2吸収量クレジットを購入するグリーンプログラムを導入している。加入者1世帯当たり年間5㎡の森林保護に貢献できるというものだ。

第2期ではジェイコムとの連携による持続的な森林保護への取り組みが森林認証機関から評価され、「森林の管理・経営の評価」が第1期の66点から81点に大幅に向上したことで「優良評価」を獲得できた。

エコ計画は森林の健全度を高めるため、伐採や植樹などの森林経営も本格化させる計画だ。21年には自社森林内の0.5haで皆伐（対象となる森林の区画にある樹木を全て伐採すること）を実施した。15年に間伐を実施した場所であるという。

樹木のCO_2吸収率は樹齢20年前後が最も高いと言われる。これまでは間伐のみで森を守ってきたが、これからは皆伐の後に植樹をして、健全な森林経営を進める。

さらに皆伐は22年度に4.39ha、23年度に1.13ha、24年度に1.74haと合計で7.76haを計画している。その後は皆伐した翌年に、それぞれの場所にスギを中心に植樹していく考えで、25年度までに約1万3200本を植えていくことを計画している。倉渕町の気候状況を考慮して、毎年5月中旬から6月中旬に植樹する方針を固めた。スギ以外では、江戸城を構築する際に当地で育てたケヤキが使われたという歴史的な経緯も受けて、ケヤキの植樹を検討しているという。

江戸城に関連して21年5月、日本森林学会は、高崎市倉渕町の旧家に伝わる江戸末期の絵画「川浦山御用木御伐出絵図」（前ページの写真）を、日本の林業発展を後世に伝える価値を持つとして「林業遺産」に選定した。「御用木」とは当時の江戸城再建に使った木材のことで、これを伐採して角材に加工する場面や、綱で木材をまとめて急な崖から川へ降ろす様子などが描かれている。群馬県では初の林業遺産となった。

この絵図が林業遺産に選ばれたことを報じた上毛新聞（21年6月3日付）によると、絵図はまさにエコ計画の森林がある場所と重なり、「地域林業の草創期を描いたもの」という。林業の歴史と文化の発祥地となったことを受け、エコ計画の敷地内には「幕府御用材搬出御会所跡」を示す看板が設置されている。

尾瀬保護財団の特別会員に

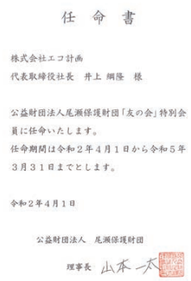
地域の文化を守り伝えるという点で、エコ計画は出資先の1つである埼玉新聞社と埼玉県が共催する「小学生がつくる環境新聞ジュニア・エコタイムス」事業も25年にわたり支援している。小学生に新聞制作を通じて、地域のみならず地球の環境問題を学んでもらうことを目的としたものだ。21年度には4080点の応募があり、4300人以上の小学生が環境新聞作りに関わったという。22年からは応募のあった件数に応じて、エコ計画から国連の関係機関に寄付する取り組みをSDGsの観点からも開始する予定である。

寄付活動では、エコ計画の“先輩”としてフォレストック認定で第1号となった尾瀬の環境保護にも注力している。16年からは尾瀬国立公園の保全活動を行なう尾瀬保護財団に寄付を実施した。17年には尾瀬保護財団から、同財団を支援する個人・企業で構成する「友の会」会員の中から、エコ計画を含む9社が特別会員に任命された。

国内の森林を直接的に保有・経営し、企業としてサステナビリティ社会へ貢献する事例は今後も増えていくだろう。気候変動などの影響か、台風や大雨などの防災面でも森林保護の価値は非常に高くなっている。山崎室長は、「今後も天然林を中心に、新たな森林の取得もエコ計画として考えていきたい」と話し、企業として一層の森林活用を推進していく考えだ。

■ 江戸城の再建に使われた木材も

高崎市倉渕町の旧家に伝わる江戸末期の絵図「川浦山御用木御伐出絵図」は、全長10mあり、当時の木材の切り出しと搬出の様子が分かる貴重な資料。2021年5月に日本森林学会の「林業遺産」に選ばれた　出所：エコ計画



任命書

株式会社エコ計画
代表取締役社長　井上 綱隆　様

公益財団法人尾瀬保護財団「友の会」特別会員に任命いたします。
任命期間は令和2年4月1日から令和5年3月31日までとします。

令和2年4月1日

公益財団法人　尾瀬保護財団
理事長　山本 一太

CO_2吸収量の最大化へ向けて皆伐と植樹で「森の健全化」を進める（写真左）／2016年から尾瀬保護財団のへの寄付も続けており、特別会員にも選ばれている（同中央、右）　出所：エコ計画